



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学結核研究所集談会記録
Description	
Citation	結核の研究, 31, 45-46
Issue Date	1971
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/26813
Type	departmental bulletin paper
File Information	31_P45-46.pdf



北海道大学結核研究所集談会記録

第 166 回 (昭和45年 1月13日)

高橋義夫：弱毒結核生菌及び死菌並びに結核菌体成分による結核免疫

文献：Youmans et al. : J. Bact., **97**, 107, 114, 134 (1969).

Crowle, A. J. : Zeitschr. Immun. Forsch. Allerg. Klin. Immunol. (Sonberdruck), **137**, 71 (1969).

第 167 回 (昭和45年 2月10日)

西江 純：A Novel α , β -Unsaturated Azoxy-containing Antibiotic.

文献：McGahren, W. J & Kunstmann, M. P. : J. Am. Chem. Soc., **91**, 2808 (1969).

奥山春枝：結核動物リンパ球培養上清の皮膚刺激活性について

文献：Pick, E., Krejčí, J., Čech, K. & Turk, J. L. Immunol. **17**, 741 (1969).

第 168 回 (昭和45年 3月10日)

関川 勲：Constitution of Rifamycins

文献：Prelog, V. : Pure Appl. Chem., **1**, 551 (1963).

木村卓郎：第 5 回 R I 生物学・基礎医学短期課程の受講報告

第 169 回 (昭和45年 5月12日)

大原 達：Hapten の免疫原性に及ぼす Carrier の役割について

文献：Havas : Immunology, **17**, 819. (1969).

Raymond et al : J. Exp. Med., **131**, 277 (1970) 他

小野寺昌彦：Myosin・ATPase の活性点のようすをさぐる—ケイ光発光基質アナログである DTP の合成とそのケイ光特性

第 170 回 (昭和45年 6月 2日)

菊地由生子：ラット腫瘍の自家免疫

塩川洋之：Acylphosphatase について

文献：Lipmann, F. : Advances in Enzymology. **6**, 231 (1946).

Raijman, L., Grisolia, S. & Edelhoeh. H. : J. Biol. Chem., **235**, 2340 (1960).

Harray. I. : Methods in Enzymology, **6** 324 (1963).

Shiokawa, H., & Noda, L. : J. Biol. Chem. **245** 669 (1970).

第 171 回 (昭和45年 7月 7日)

外岡秀一：The Structure. of Nucleocjdin

文献：Thomas, S. O. et al : Antibiotics Amm. **716**

(1956).

Movton, G. O. et al. : J. Am. Chem. Soc. **91**, 1535 (1969).

Shuman, D. A. et al : J. Am. Chem. Soc. **91**, 3391 (1969)

柿沼光明：抗 DNP 活性を有するミエローム蛋白が多いのはなぜか

文献：Eisen, H N. et al : Biochemistry. **7**, 4126 (1969). その他

Panker, C. W, et al : Biochemistry. **9**, 1074 (1970).

第 172 回 (昭和45年 9月16日)

結核研究所発表会

佐々木昭雄：結核菌イソントール・リン脂質の免疫化学

山本健一：1. 実験結核におけるツ・皮膚反応 Macrophage Migration Inhibition および抗菌免疫の関係
2. Airborne 接種 B C G の推移 3. 結核における一過性脱感作用時の Macrophage Migrotian Inhibition

高橋義夫, 有馬 純, 山本健一, 中本節郎, 三浦和子
佐々木昭雄：結核菌のプロナーゼ抽出画分の免疫学的研究 (I)

高橋義夫：予防部門研究の概括と展望

佐藤 登：Isoniazide の Pentobarbital 睡眠時間におよぼす影響

大杉隆史, 柴田正弘：血液ガス分析について (動脈血と耳だ血との成績比較)

久世彰彦：肺結核患者における Rifampicin の治療成績

久世彰彦：診療部門研究の概括と展望

小野江和則：兔肺細胞の電顕登観察

菊地由生子：MI 現象の基礎的研究

森川和雄, 奥山春枝：感作大食細胞因子について

森川和雄：病理部門研究の概括と展望

木村卓郎： γ M・ γ G 抗体の抗原結合能

柿沼光明：1. ウサギ IgG の a_2 フラグメントの特異性

2. ウサギ IgG の Fc フラグメントの細分画

山下慎子：1. ウサギにおける Antigenic Competition の一例 2. ウサギのリンパ節等の histone

大原 達：細菌部門研究の概括と展望

外岡秀一： β -Picoline N-Oxide の $POCl_3$ による反応における by-product について

西江 純：Pyrazole 誘導体の合成

関川 勲：6-Azapurine 誘導体の合成

柿本七郎, 山本健一, 有馬 純, 久世彰彦: 結核菌による新テトラゾリウム塩の還元発色について

柿本七郎: 化学部門研究の概括と展望

小野寺昌彦, 塩川洋之: 結核菌培養濾液蛋白質の分画

塩川洋之: 生化学部門研究の概括と展望

第 173 回 (昭和45年10月13日)

久世彰彦: 難治結核について

柿本七郎: A review of the action of isoniazid

文献: Yonatt, J.: Am. Rev, Respirat. Dis. **99**, 229 (1969)

森川和雄: 遅延型感作による所属リンパ節の変化